

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東淀川区
学 校 名	大隅東小学校
学校長名	山崎 直樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大隅東小学校では、第6学年 27名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度は国語科・算数科いずれの教科においても全国・大阪市平均には届かなかった。①国語（対全国比：－13.7、対大阪市比：－1.2）算数（対全国比：－9.4、対大阪市比－8.0）

また、国語科の平均無解答率は（対全国比：＋2.4、対大阪市比：＋3.3）であり、算数科での平均無解答率は、（対全国比：＋1.5、対大阪市比：＋1.7）と、全国・大阪市より高く、問題に取り組む児童の意欲に課題があることがわかった。

このような結果から、児童が学習に対する興味や関心を高めるような学習活動を行うとともに、児童にとって「分かる授業」を確実に提供する必要があるといえる。

また、学力向上支援チーム事業重点支援校として、学びコラボレーターとの連携を図りながら、放課後学習や長期休業中の学習等の機会を設け、児童の基本的な力を向上させていく必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語科において、領域別の結果を見てみるとA「話すこと・聞くこと」対全国比－17.8、対大阪市比－13.3、B「書くこと」対全国比－7.3、対大阪市比－4.8、C「読むこと」、対全国比－18.8、対大阪市比－18.2であり、いずれも全国・大阪市平均を下回り、本校の課題だといえる。日常的に「書く」活動を国語科のみならず、どの教科でも取り入れていく必要がある。今年度も、「読解力」に重点を置いた指導を行っているので、いずれ結果として表れることが期待される。

〔算数〕算数科においては、領域別の結果を見てみると、A「数と計算」対全国比－9.8、対大阪市比－8.6、B「図形」対全国比－13.5、対大阪市比－11.8、C「変化と関係」、対全国比－8.5、対大阪市比－7.6、D「データの活用」、対全国比－6.2、対大阪市比－4.4であり、対全国比、対大阪市比のいずれも下回っている。特に数と計算や図形領域についての考察において、指導の工夫を行っていく。また、ICT機器などを活用して、児童が実感を伴って理解できるような授業改善を図っていききたい。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思う」について、肯定的な回答が全国平均よりも3.4ポイント低く、大阪市の平均よりも0.6ポイント低い。本校では、安心・安全な学校や魅力的な学校にするために全教職員が創意工夫を重ねているので、引き続き重点的に取り組む。

一方、自己肯定感につながる質問については、「自分にはよいところがある」の肯定的な回答の割合が対全国比、対大阪市比より8.5ポイント高く、「将来の夢や目標」の肯定的な回答の割合が対全国比より10.2ポイント高く、対大阪市比より10.4ポイントも高い。

また、学習面についての質問については、「国語科、算数科の勉強が好き」と肯定的に回答する児童の割合が高い。しかし、「国語の授業の内容はよく分かる」は全国平均、大阪市平均より低い。このことから、さらに児童が学習に向かう意欲をもち、学習内容が定着していくような働きかけや反復練習が欠かせないため、今後も、さまざまな施策を活用しあらゆる場面で学力の向上を目指していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

学習については、苦手な問題に対して繰り返し反復練習を行うことで、領域によっては改善が見られつつある。まずは、児童にとって分かる授業を提供するとともに、重点支援校として、今後も放課後学習や長期休業中の学習などの取り組みを継続して進めていくことが大切であると考え。

基本的な生活習慣や学習習慣の定着については、家庭と連携するとともに児童自身が改善に結び付けられるよう具体的な活動支援を重ねていきたいと考えている。

【 全体の概要 】

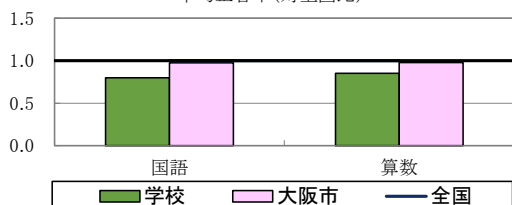
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	54	54
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

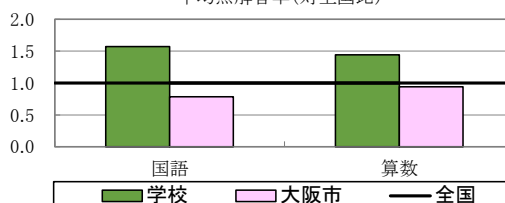
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	6.6	4.9
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



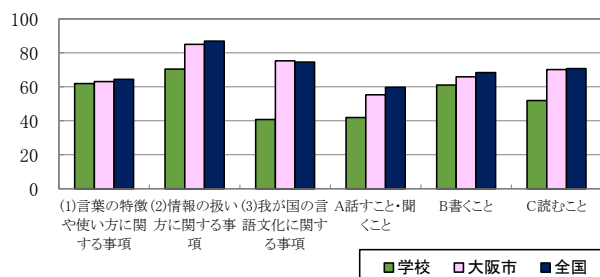
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	62.0	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	70.4	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	40.7	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	42.0	55.3	59.8
B 書くこと	2	61.1	65.9	68.4
C 読むこと	3	51.9	70.1	70.7

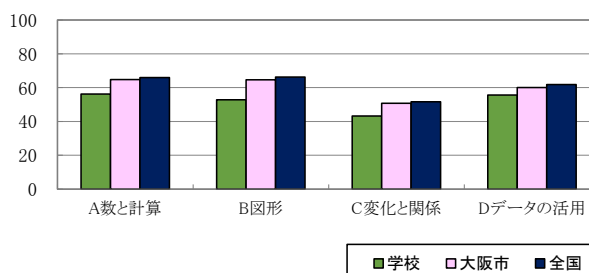
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	56.2	64.8	66.0
B 図形	4	52.8	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	43.2	50.8	51.7
D データの活用	4	55.6	60.0	61.8

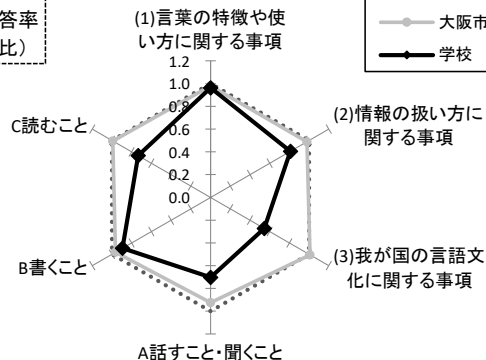
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



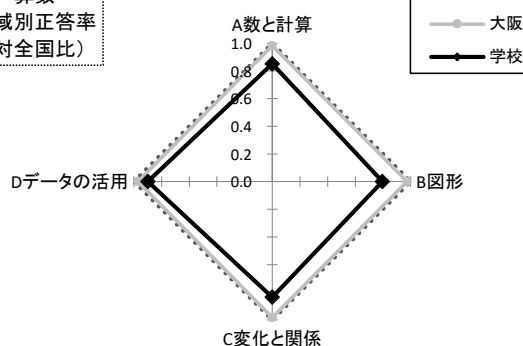
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



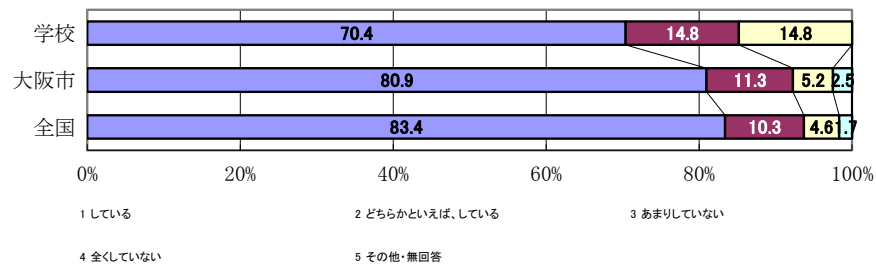
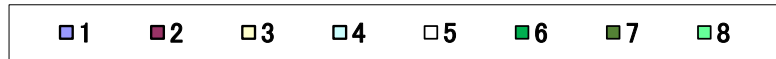
児童質問より

質問番号

質問事項

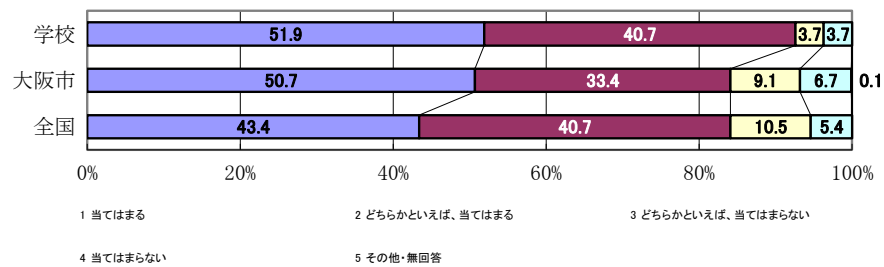
1

朝食を毎日食べていますか



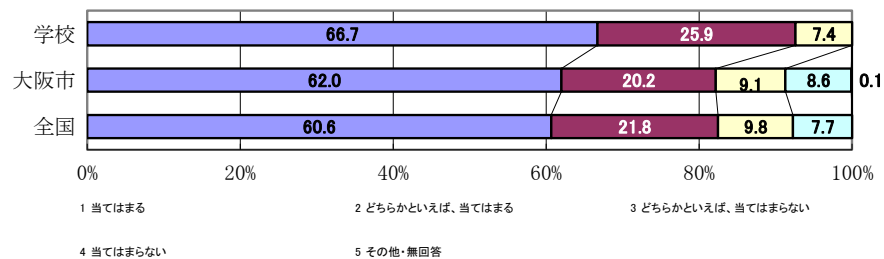
9

自分には、よいところがあると思いますか



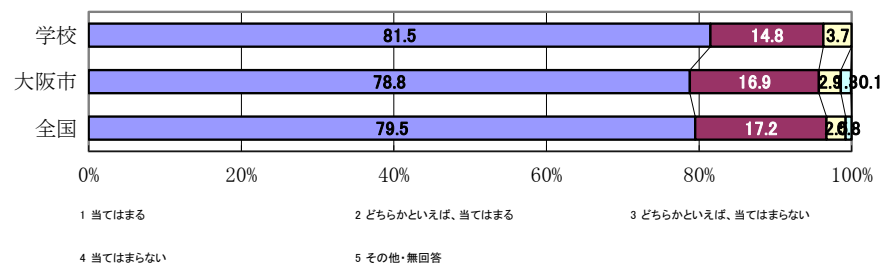
11

将来の夢や目標を持っていますか



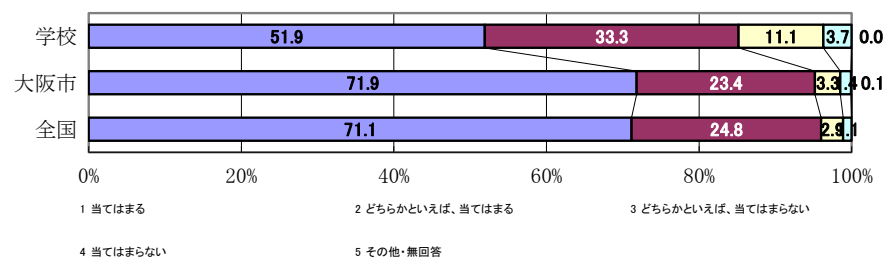
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



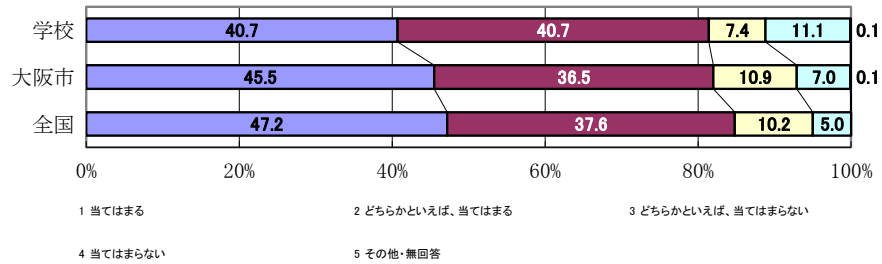
児童質問より

質問番号

質問事項

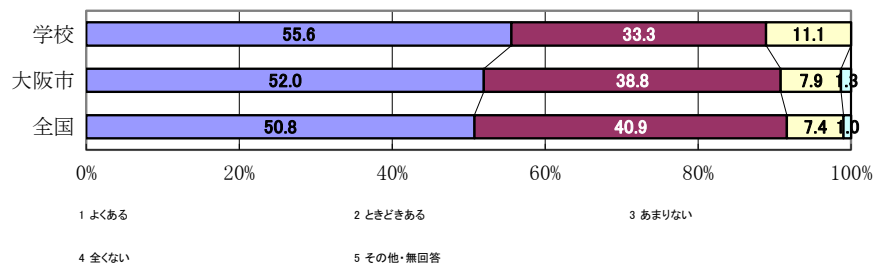
16

学校に行くのは楽しいと思いませんか



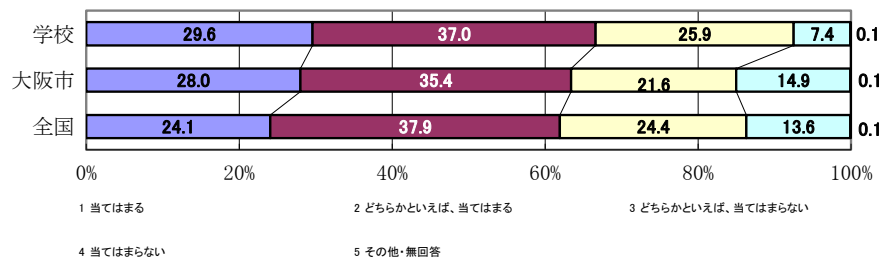
19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



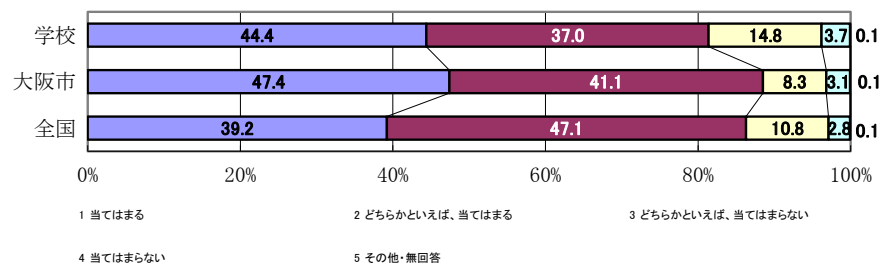
42

国語の勉強は好きですか



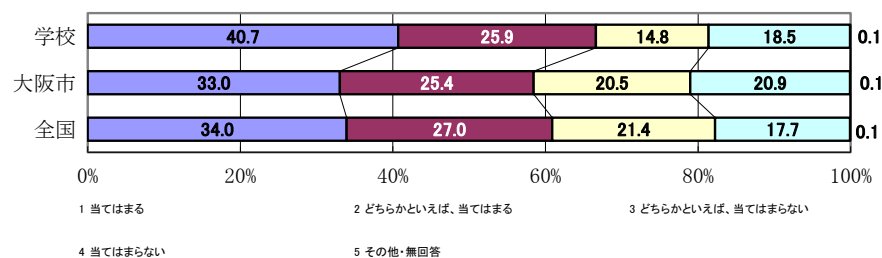
44

国語の授業の内容はよく分かりますか



50

算数の勉強は好きですか



学校質問より

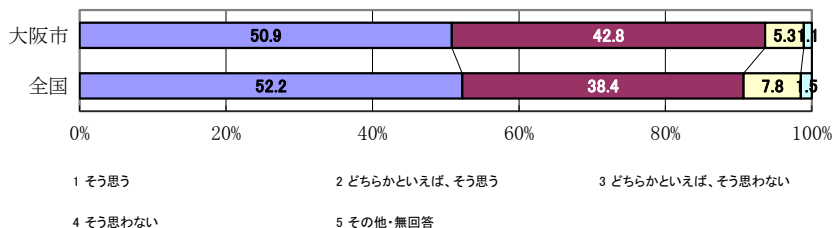
質問番号

質問事項

8

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか

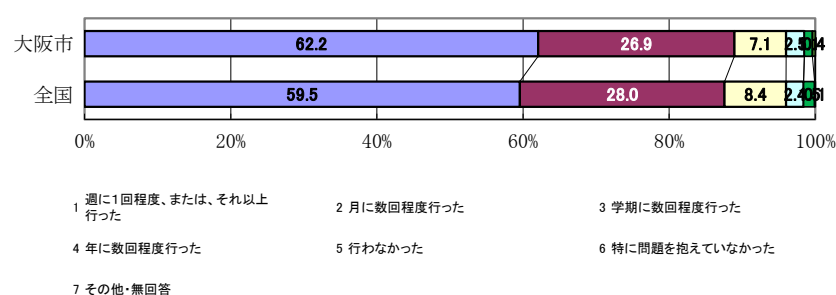
学校 「そう思う」を選択



10

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

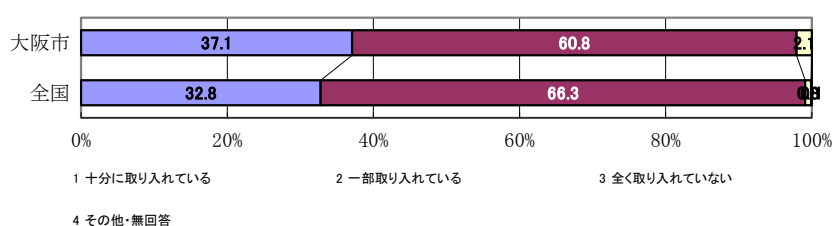
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



11

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

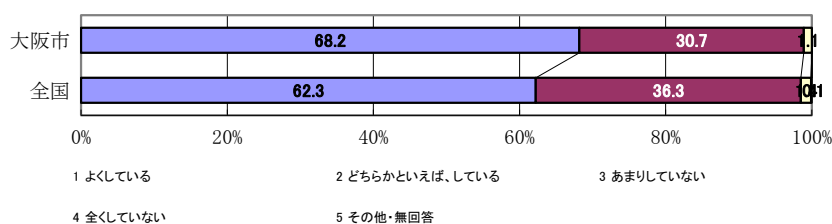
学校 「一部取り入れている」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



56

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

